

## 第十八節 獣医部規則

わが国の獣医学は、ドイツ人ヤンソン J. L. Janson の力によって斯学興隆の基礎が作られたもので、ヤンソンは「一八四九年柏林市に生れ、初め柏林獣医学校に学び陸軍獣医適任證を得一八六九年には牛疫防遏の爲め露国国境に出張を命ぜられた。後柏林医科大学に入って専ら病理解剖学を研究し、一八七六年には柏林医学校助教となつた。」又、「明治十三年元駒場農学校の招聘によつて来朝し、後転じて農科大学獣医学教師となり同三十五年迄学生の教導に努め、その間に獣疫撲滅法の必要を唱道し、獣医畜産に関する著述をなし、又乳肉検査法、匹馬改良法を制定し、家畜伝染病を調査せる等我産業界に裨益せる所極めて大なるものがあつた。明治三十五年に大学名誉教授となり、終身年金千二百円を給せられ同三十六年に勲三等瑞宝章を賜つた。」と云うのであるが、長崎において、獣医学が重視されたのは、馬匹、耕牛の

悪疫、流行病の後に漸く注目されたからである。

明治十九年の教育制度改革に伴い、長崎医学校に附設されていた獣医学部も教則を整えることとなつたが、明治二十年三月二十三日、学務課では学発四六号「獣医部教則等取調之件、長崎医学校へ照会按」を審議し、来る二十年度より長崎医学校に開設される獣医学部教則等を至急取調べ、学務課へ回付するよう照会した。これに対し、医学校では三月三十一日に至つて県第二十一号「獣医学部教則進達之件」を第式部学務課宛てに発し、教則を調製し、完成したので、届けると共に回答する旨を申送つた。これは更に五月十二日まで審議が重ねられているが、この間、四月二十三日より再審議を開始した学務課では、五月三日にこれを決議し、同月五日に県令第四十七号を以て長崎県長崎医学校獣医部規則を決定し、十三日に完結している。

獸医部規則ノ件

長崎医学学校獸医部規則別冊ノ通り御制定相定可然哉県令

案左ニ相伺候也

県令案

県令第四十七号

本県長崎医学学校獸医部規則ヲ左ノ如ク相定ム

年月日

知事御名

長崎県長崎医学学校獸医部規則

長崎医学学校内ニ獸医部ヲ置キ専ラ簡易ノ教則ニ抛リ獸医ニ  
関スル學術ヲ教授シ以テ目下応用ノ便ヲ計ルヲ旨トス

第一章 入学

第一条 入学スルコトヲ得ルハ本県高等小学校第二年級卒業  
相当ノ学力ヲ有シ齡十八年以上ノ男子ニシテ品行端正身体  
強健在学中家事ニ関係ナキ者ニ限ル

第二条 入学ヲ分テ志願入学撰選入学ノ二トス

第三条 志願入学ハ身元保証人ヲ立テ自己ノ志願ヲ以テ入学  
スルモノニシテ卒業ノ後随意ニ獸医業ヲ開業スルコトヲ得  
ヘシ

第四条 撰挙入学ハ身元保証人ヲ立テ卒業ノ後撰挙ノ郡区町  
村内ニ在テ三ヶ年以上獸医ヲ開業ス可キ予約ヲ為シ郡区長  
ニ撰挙セラレ入学スルモノニシテ約期ヲ経ルニ非レハ随意  
ニ他ノ地ニ於テ開業スルコトヲ得ス

第五章 長崎醫學学校

第五条 入学ノ期ハ予メ之ヲ定メス臨時ニ広告募集スル者ト  
ス

第六条 入学セントスル者ハ募集広告ニ從ヒ其志願入学ノ者  
ハ保証人ノ入学証書(書式第一)其撰挙入学者ハ郡区長ノ撰挙証  
書(書式第二)ニ履歷書及約書ノ写ヲ添ヘテ差出スヘシ

第七条 身元保証人ハ都ヲ本県内ニ籍ヲ定メ現ニ居住スル戸  
主ニシテ齡二十年以上ノ男子二名ヲ以テ定員トシ内一名ハ  
長崎区近傍ノ居住者ニ限ル

但学校長ニ於テ保証人ヲ不充分ナリト認ムルトキハ之ヲ  
易ヘシムルコトアルヘシ

第八条 身元保証人ハ本人身事金件ニ関シ不都合アル時ハ之  
ニ代任スルノ責アルモノトス

第二章 学資

第九条 学資ハ志願入学者ハ自費タル可ヤ撰挙入学者ハ郡区  
町村費タルヘシ

第十条 志願入学者ハ毎月授業料金拾錢本県外ノ者ハ同金式  
拾錢ヲ納ムヘシ

第三章 学科

第十一条 本部ノ学科ハ左ノ如シ

- 一 比較解剖学兼組織学及其実習
- 一 比較生理学
- 一 家畜薬物学及調剤法

# 第十八節 獣医部規則

- 一 家畜内科学
- 一 家畜外科学
- 一 家畜産科学
- 一 獣医警察法及家畜伝染病論
- 一 病院実習

右ノ外動物学、植物学、理学、化学、相馬学、家畜蕃殖、及飼養法、截鉄、梳剪等ノ要件ヲ教授スルコトアル可シ

第十二条 習業年限ハ二ケ年トシ学級ヲ二級トス

第十三条 学年ハ九月一日ニ始リ七月三十一日ニ終ル学年ノ始ヨリ二月十五日迄ヲ前期トシ二月十六日ヨリ学年ノ終迄ヲ後期トシ毎級二期ノ学習トス

第十四条 授業時間ハ一ケ年四十四週トシ第一年級ニ於テハ一週二十四時間第二年級前期ニ於テハ二十七時後期ニ在テハ三十時トナス

## 第五章 試験

第十五条 試験ヲ分テ入学試験定期試験全科試験ノ三種トス

第十六条 入学試験ハ入学ノ時施行スル者ニシテ其科目左ノ如シ

- 一 算術 (四則、応用、分數、小数、比例)
- 一 講義書取 (片仮名、交リ)
- 一 作文 (片仮名、交リ文)

第十七条 本県高等小学校第二年度以上ノ卒業者ハ試験ヲ用

ヒスシテ入学ヲ許ス

但志願者募集人員ニ超ユル片ハ試験ノ上撰拔ス

第十八条 定期試験ハ毎期ノ終リニ施行スルモノニシテ前期ハ二月上旬後期ハ七月下旬トス

第十九条 全科試験ハ第二年級後期ノ終ニ施行スルモノトス

第二十条 入学試験ヲ経テ合格スル者ハ入学ヲ許シ定期試験ヲ経テ合格スル者ニハ学期卒業証書(書式)ヲ附与シテ学級ヲ進メ全科試験ヲ経テ合格スル者ニハ(第二)年級後期卒業試験ヲ与フルノ外更ニ全科卒業証書(書式)ヲ附与シテ退学ヲ許ス

第二十一条 何等ノ試験ヲ問ハス不合格者ハ更ニ一期ヲ經ルニ非レハ再試験ヲ受クルコトヲ得ス

第二十二条 此規則ニ掲ケサルモノハ明治十六年四月本県甲第二十八号長崎医学校規則ニ拠ル

## 長崎医学校獣医部課程表

第一年級		學科		時間		前 期		後 期		學科授	
				毎週		時間		時間		比較	
解剖	比較	一二	總論骨学関節学	一二	脈管学神經	二四	比較	一二	總論骨学關節学	一二	總論骨学關節学
生理	比較	六	總論血行体質变化消化呼吸及体温度	六	運動神經五官生殖胎生	一二	比較	一二	總論血行体質变化消化呼吸及体温度	六	總論血行体質变化消化呼吸及体温度

家畜藥物学 六 藥物理学総論  
並処方学 六 前期ノ統  
通 計 二四 二四 処方学 一二

第二年級

学科 毎週 前期 毎週 後期 学科授  
時間 時間 時間 時間 業時間  
比較

家畜内科学 六 総論 各論 六 各論ノ統 一二  
家畜外科学 六 総論 各論 六 各論ノ統 一二

家畜産科学 六 総論 各論 六 各論ノ統 一二  
伝染病予防 六 分娩手術等 六

獸医警察法 三 撲滅及乳肉 三  
病舍伝染 二 検査等 二

病舍実習 一二 通 計 二七 三〇 一〇五

書式第一(朱)

(城谷) 志願入学証書(朱)  
某 県 郡 某 村 第幾番戸  
某 府 区 某 町 第幾番戸

居住族籍何誰男  
居住族籍何誰弟

年号幾年幾月日誕生 何誰

右之者獸医学志願ニ付御校へ入学仕ラセ候間御教授被下度最  
御規則向堅ク相守ラセ候へ勿論若シ身事金件ニ関シ不都合ノ  
義有之候節ハ一切何誰共ニ於テ引受可申此段相願候也

明治幾年月日

第五章 長崎醫学校

長崎県某 郡 区 某 町 第幾番戸

居住戸主族籍

何誰保証人 何誰 印

長崎県長崎区何町何町第幾番戸

居住戸主族籍

何誰保証人 何誰 印

長崎県長崎医学校長何誰殿

右之通相違無之因テ奥印致候也

長崎県某 郡 区 某 町

戸主 何誰 印

書式第二

撰挙入学証書

長崎県某 郡 区 某 町 第幾番戸

居住族籍何誰男  
居住族籍何誰弟

年号幾年幾月日誕生 何誰

右之者別紙写ノ通約定致シ貴校獸医部へ入学致サセ候間御教  
授相成度候也

明治幾年月日

長崎県某 郡 区 長 何誰 印

長崎県長崎医学校長何誰殿

第十八節 獸医部規則

書式第三

第幾号

証書

印割

脳上中下

某府県族籍

何誰

生年月日

獸医学科幾年級前期ノ課程ヲ履修セリ

校

明治幾年月日

印

長崎県長崎医学校

書式第四

第幾号

印割

優等中下

某府県族籍

何誰

生年月日

獸医学科卒業ス

明治幾年月日

長崎県長崎医学校長

何誰印

これは「明治廿年自一月十一日学務課決議簿学制ノ部」に見えるところである。